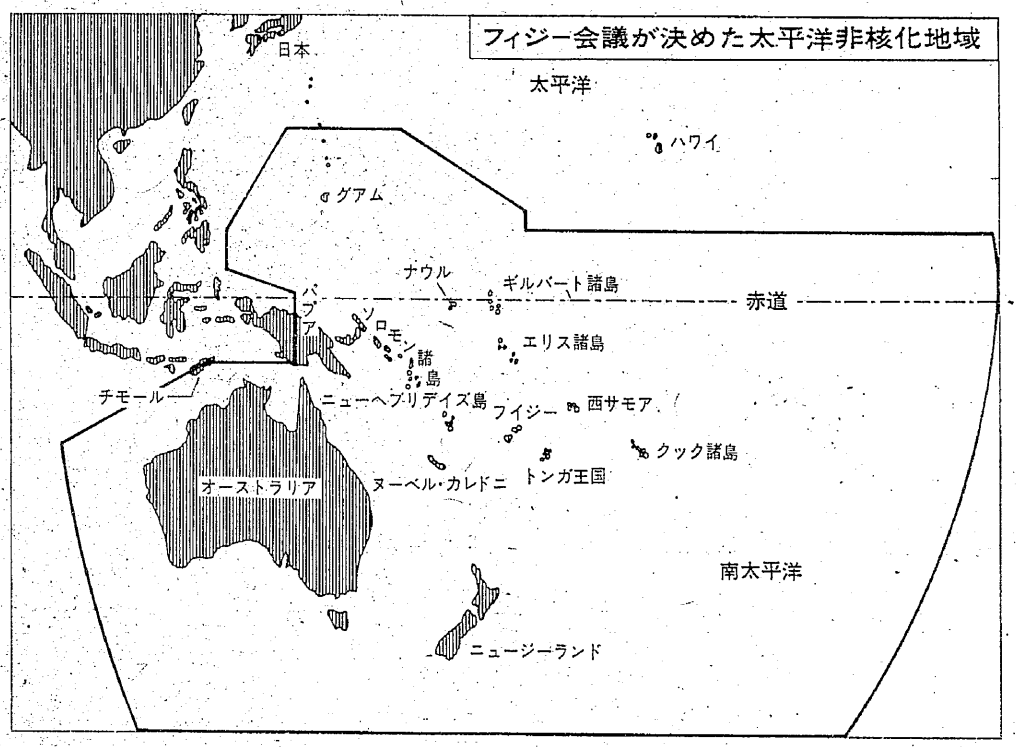

今南太平洋は、核の汚染区域と指定された感があります。恐ろしい核開発競争が、主としてこの海域で展開されています。島々に新しい核基地が増設され、現実は一触即発の危機にあるのです。このさまを、最初の原水爆被爆国の国民として許しておいてよいものでしょうか？

すべての核を追い出そう

今年も広島で長崎で、被爆三十周年原水爆禁止世界大会が開かれ、「日本からすべての核を追い出そう」と固い決意をこめ誓い合いました。ここに、長崎大会に参加された高木知生さんから感想文をいただきました。みんなで、原水禁運動を強化するため努力してゆきましょう。

私なりに学んだこと

本所指導部　高木知生

被爆三十周年原水禁ナガサキ大会に、参加することができました。みじかい時間ではありましたが、分散会の討論集会などで私なりに学びとったことを報告したいと思います。

原爆が投下されて早くも三十年がすぎました。被爆二世が三十歳になります。

ひと口に三十年と言いますが、その間私たちは平和をもとめてあらゆる運動を積み重ねてきました。

憲法を守り、反戦反核の運動を全労働者階級の連帯で進めてきました。

三十年の間、政治情勢は大きく変っております。

第二次世界大戦は、日本軍部と財閥が外国に対して侵略するためにおこした戦争であります。

敗戦後は平和を守り、民主主義を追及してきましたが、本当の平和とは思えないことばかり沢山ありすぎます。完全な戦後といえない問題が多すぎるからです。

被爆者は老令で、ほとんどの人が健康障害に苦しみ、労働に耐えられないのです。そのために、生活苦と病苦の悩みのくりかえしです。いつ病状が悪化して死亡するかわからない、ということです。

現在被爆二、三世の人たちにも、原爆被爆者と同じような病状があらわれているそうですが、医学的に何の証明もされておりません。

私はどんな運動をなすべきか、を考えてみました。国会の場でくり出され、次代の原爆をつくる主な要素にもなるのです。自衛隊も核武装が手の届く所にある、と言われており、原発の平和利用はありえないということです。

平和教育の運動が取りくまれておりますが、戦後三十年、戦争を知らない子どもばかりです。マスコミによって、戦争をあこがれている面もあるほどです。戦争を憎む気持はいまはうすらいでいるのではないでしょうか。三十年前の原点に帰って、もう一度考え直すべきだと思います。教組がとりくんでいる平和教育の運動を、父母とも積極的に支持し、八月六日のもつ意味を子どもたちに知らせることだと思います。

被爆県である佐世保港で、原船〝むつ〟の母港化が計画されていますが、何としても許してはならないと思います。原子力商船〝むつ〟は、原潜の前ぶれであるといわれています。秋の闘いで長崎県民始め、原水禁運動支持者や労働者全体の闘いで〝むつ〟母港化反対の闘いがもりあがることでしょう。

原水禁運動は、統一のために総評と社会党が中心になり努力を重ねてきましたが、実現しませんでした。この問題に対して多く議論がなされてきましたが、闘っている者のみが勝利を得るのです。原水禁運動に結集されたあらゆる階層の国民と手をたずさえ、日本の国からすべての核を取り除く運動をすすめなければなりません。

いかなる国の核兵器にも反対し、原水爆禁止を実現させるまで闘おうではありませんか。

主張　平和問題が問うているもの

日本がすべての戦争政策を放棄し、同時に世界各国が平和共存への道を決意したのは、この地球上ではじめて、広島と長崎に投下された原爆の威力があまりにも強大で、人類の滅亡を招くことがわかったことに起因します。

この六日から原水爆禁止の広島大会から長崎大会と開催されましたが、平和問題がかかえ込む多くの内容は、被爆三十周年の年忌を振り返るとき、改めて決意を問うていることを知ります。

平和問題ほど国際的に深い因果関係を持つものはなく、いま極めて危険な方向に問題が潜行していることを痛感します。

第一は、米ソの莫大な軍事費の増加であります。全世界の軍事費の三分の二を両国で占めると言われています。

第二は、強国の核戦略体制の強化と競争であります。

第三は、朝鮮半島をめぐる、日米安保協定に基づく日本の態度と、飛躍的に近代化された自衛隊の装備であります。

第四は、アラブ諸国の軍事費の五〇％以上の増加であります。

南ベトナム民族解放戦線の勝利と、その結果がもたらした各国への軍事的影響は、この地球上に平和破壊の危機を促進しつつあるとしても決して過言ではあるまい。

このとき現実に、三木・フォード会談でアメリオのアジア進出支配の拠点として、韓国に米軍駐留を同意したほか、密議が交され、その内容が公表されないという疑惑に満ちた三木首相の態度は、被爆三十周年の平和大会の真っ只中、原爆の洗礼を受け、「三度くり返えすなこの悲劇を」、と平和を希う国民の心情をじゅうりんするものであり、民族の生存と繁栄を政治信念とすべき政治の原則からして、断じて許されるものではありません。

広島の原爆被爆者は五十数万人。そしていま、被爆手帳を持っている人は十二万人。この一年間になんと、被爆者三千百七十二人が死亡した、と言われます。

今日被爆入院患者の年令は、六十才以上が八〇％と言われます。このような事実の上から平和を希う国民の核兵器廃絶の叫びも無視され、核戦略への秘事はますます進行しています。

雑誌「世界」の八月号敗戦三十年記念号には次のように記述しています。表面では国際政治は「緊張緩和」がまかりなりにも進行しているといわれますが、核軍備競争はやむことなく続き、世界の軍事費は増加の一途をたどっている。そして米国だけでも現在広島型原爆の六十一万倍の威力を持つ核弾頭を貯蔵している。ソ連もほぼ同量の貯蔵をしていると言われます。平和共存とは裏腹に核兵器を使っての先制支配を意図してエキサイトしているのです。

このように核兵器の製造・実験・貯蔵は、平和の人間の願いに逆行しながら進行している事実を重視しましょう。

現情下において日本の平和運動が、「被爆三十周年のことしこそ原水禁運動の国民的な大統一を実現しよう」、と総評と日本平和委員会の十二年ぶりの統一大会への努力にもかかわらず実現しなかったことは、誠に遺憾であります。それも日本共産党と原水協側の、「いかなる国の核実験・核兵器にも反対する」という原水禁運動の基本原則に反対する態度が、統一大会を阻害したことについて、平和運動は極めて重視されなければなりません。

大牟田市議会においても、被爆三十周年、平和に関する諸問題についての請願が、大地評をはじめ他四団体の手で行なわれましたが、社会・共産・公明各党を除く党派が反対したため否決されました。三十年前、瓦れきと化した大牟田市で、平和都市宣言すら議決できず、戦争を知らない子どもに平和授業の実施すら妨害される実情です。

日本政府と独占は、今日の不況を軍事産業の強化により経済の好転をはかろうと狙っているでしょう。死の商人たちが横行する事態を再現しえないと、果して誰が断定できるでしょうか。

被爆三十年、われわれの平和運動は、日本独占の弱肉強食の寡占体制を打破する反合、反独占闘争を闘うこと、あらゆる平和勢力を統一結集すること、長沼判決を具体的に生かす護憲運動の強化であり、被爆者援護法制定を闘いとることであります。

いま一度被爆三十周年に当って、平和とは何か、真剣に考えるときではないでしょうか。

学生集会を終って

八月二日から五日までとりくみました三池に学ぶ学生集会に対するご支援に感謝します。ここに、五日の総括集会で出た意見や感想を報告したいと思います。

――日常生活の一つひとつが運動になっている。「われわれの生活態度を新労の人びとに見てもらうことによって、新労の人たちとの接触が始まる」、という言葉は、自分の運動に対する自信ともなっていた。ともすれば運動のことなど考えたくなくなっている自分について、考えさせられた。

――資本から学ぶということが整理され、敵をよく知っている。「われわれが成長したのは、三井のおかげだ」ということがよくいわれた。

ほかにも、まだたくさんの意見があると思います。

われわれの追及している運動の内容や悩み、問題点などを出していくと、組合員、主婦会員、家族の人たちは積極的に、われわれにくり出され、次代の原爆をつくる主な要素にもなるのです。自衛隊も核武装が手の届く所にある、と言われており、原発の平和利用はありえないということです。

平和教育の運動が取りくまれておりますが、戦後三十年、戦争を知らない子どもばかりです。マスコミによって、戦争をあこがれている面もあるほどです。戦争を憎む気持はいまはうすらいでいるのではないでしょうか。三十年前の原点に帰って、もう一度考え直すべきだと思います。教組がとりくんでいる平和教育の運動を、父母とも積極的に支持し、八月六日のもつ意味を子どもたちに知らせることだと思います。

被爆県である佐世保港で、原船〝むつ〟の母港化が計画されていますが、何としても許してはならないと思います。原子力商船〝むつ〟は、原潜の前ぶれであるといわれています。秋の闘いで長崎県民始め、原水禁運動支持者や労働者全体の闘いで〝むつ〟母港化反対の闘いがもりあがることでしょう。

原水禁運動は、統一のために総評と社会党が中心になり努力を重ねてきましたが、実現しませんでした。この問題に対して多く議論がなされてきましたが、闘っている者のみが勝利を得るのです。原水禁運動に結集されたあらゆる階層の国民と手をたずさえ、日本の国からすべての核を取り除く運動をすすめなければなりません。

いかなる国の核兵器にも反対し、原水爆禁止を実現させるまで闘おうではありませんか。

方向性は同じだった

悩みをよく聞いてくれた三池

意見を述べてくれました。とにかく将来の展望として、方向性は一つだということを共有することができたと思います。

全体的には、われわれが目的としていた所はほぼ達成できたと思っています。つまり、われわれ自身の生活に対する見方を確立するとともに、われわれ自身の現場からの運動の創出、その中で問題点を出し合いながら運動をち密にしてゆくことをのぞんだのですが、ここに若干紹介した意見からもわかりますように、成果はあがったことを確信しています。

×

右は実行委員会一同によってしたためられた報告の抜すいです。

豆ニュース

三木首相が訪米。首脳会談でコックリ舟をこぐうちに、〝韓国防衛〟にひきこまれ……。

×

老人医療無料化に露骨な攻撃しきり。使いすてホイホイでは人間をゴキブリあつかい。

×

欠陥生コンで高層ビルに倒壊の危険。インフェルノ（地獄）は火事ばかりじゃない。

×

ユーレイやお化けをなつかしむ研究ブーム。あの世よりこの世がこわくて出られません。